

教科（科目）	国語（国語総合 現代文編）	単位数	3単位 （6単位のうち）	学年	1年
教科書	『精選 国語総合 改訂版』（三省堂）		副教材等	『マナトレ 国語 基礎編』 （ベネッセコーポレーション）	

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 指導の重点

さまざまな文章を読み、視野を広げて思考力を養うとともに、自らの意見を論理的な根拠を示しつつ的確に表現できる力を養う。また、表現の基本となる漢字や語句の意味について繰り返し学習することで、国語の基礎を確かなものにする。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価規準	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	発言（質問） 取り組み姿勢 提出物 定期考査 各種小テスト	発言（質問） 音読（朗読） 取り組み姿勢 発表・スピーチ	学習プリント 作文 定期考査 各種小テスト	発言（質問） 学習プリント 定期考査 各種小テスト	発言 学習プリント 定期考査 各種小テスト

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は、現代文と古典それぞれ100点満点で実施し、学期末に国語総合として合わせて評価する。授業では、課題プリントや作文・小論文に取り組み、提出する。漢字・語句の意味や用法を問う小テストも随時実施する。提出物や小テストを評価する。

5 担当者からの一言

まず、本文をしっかり読むことが基礎となります。そして、その中でわからなかったことや不思議に思ったことを、そのままにせず、授業を通して理解していきましょう。教科書には、皆さんの人生に役立つ内容がたくさんつまっています。積極的に授業に取り組み、有意義なものにしてください。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前半 1 7 時間 想定 1 学 期	【随想】 ぐうぜん、うたがう、 読書のススメ (川上未映子)	・述べられている事例に着目し、 筆者の考えを読み取る。	・漢字の練習をする。 ・語句の意味を調べる。 ・本文を読んで本文の内容を理解する。 ・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。
	【随想】 「待つ」ということ (鷺田清一)	・対比表現に着目し、筆者の主張 を過不足なく読み取る。	
	中間 考 査		
	【小説】 羅生門 (芥川龍之介)	・描かれた人物、情景、心情など を表現に即して読み、場面の推移 や人物の心理の変化を理解する。	・漢字の練習をする。 ・語句の意味を調べる。 ・本文を読んで本文の内容を理解する。 ・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。
後半 1 7 時間 想定	【評論】 水の東西 (山崎正和)	・対比表現に着目し、筆者の主張 を過不足なく読み取る。	・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。 ・言葉の意味を深く考え、表現の仕 方を意識して読み進める。
期 末 考 査			
前半 2 2 時間 想定 2 学 期	【評論】 言語は色眼鏡である (野元菊雄)	・筆者が挙げた具体例に着目しな がら、筆者の主張を過不足なく 読み取る。	・漢字の練習をする。 ・語句の意味を調べる。 ・本文を読んで本文の内容を理解する。
	【短歌・俳句】 短歌十六首 (与謝野晶子ほか) 俳句十六句 (正岡子規ほか)	・作品を音読し、日本語の響きを 味わう。 ・短歌・俳句の基本的な技法につ いて理解する。	・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。 ・印象に残った短歌や俳句について、 鑑賞文を書く。
	中間 考 査		
	【小説】 清兵衛と瓢箪 (志賀直哉)	・描かれた人物、情景、心情など を表現即して読み、場面の推移 や人物の心理の変化を理解する。	・漢字の練習をする。 ・語句の意味を調べる。 ・本文を読んで本文の内容を理解する。
後半 2 1 時間 想定	【評論】 情報と身体 (吉岡洋)	・引用事例および筆者の論理展開 に着目し、筆者の主張を過不足 なく読み取る。	・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。
期 末 考 査			
2 3 時間 想定 3 学 期	【評論】 コインは円形か (佐藤信夫)	・文章に用いられている表現技法 の特徴を捉える。	・漢字の練習をする。 ・語句の意味を調べる。 ・本文を読んで本文の内容を理解する。
	【小説】 なめとこ山の熊 (宮沢賢治)	・民話的な語り口のおもしろさを 味わうとともに、そういう形式 によってしか表現できなかった 人間と自然との関係を読み解く。	・本文の主題や筆者の主張に対する 自分の意見を書く。
	学 年 末 考 査		

*各学期とも、適宜『マナトレ 国語 基礎編』を用いて国語常識の演習と確認を行う。

計 101時間 (52分授業)

教科（科目）	国語（国語総合）	単位数	3単位（6単位のうち）	学年	1年
教科書	『精選 国語総合（改訂版）』（三省堂）	副教材等	『読解をたいせつにする体系古典文法』（数研出版）		

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 指導の重点

- ・文語のきまり，訓読のきまりなどを理解する。
- ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりする。
- ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価規準	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	発言・質問 授業態度 提出物 小テスト 定期考査	朗読 提出物 小テスト 定期考査	発言・質問 提出物 小テスト 定期考査

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は現代文と古典それぞれ百点満点で実施し、各学期末に合わせて国語総合として評価する。授業ではプリントや課題に取り組み、その都度提出する。歴史的かなづかひの読み、単語の意味、訓読に関する小テストも随時行う。提出物や小テストは、評価の重要な材料とする。

5 担当者からの一言

古文も漢文も、音読できることがすべての基本となります。それをふまえて、内容を理解するために、自ら辞書を引いて単語の意味を理解し、古典文法や漢文の句法を繰り返し学習することが必要です。目で見て、耳で聞いて、声に出して、手を動かして、様々な感覚を使いながら身につけていきましょう。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動（評価材料）
前半 1 7 時間 想定 1 学期	児のそら寝 （宇治拾遺物語） 検非違使忠明 （今昔物語集）	<ul style="list-style-type: none"> 古文に親しむ。 歴史的仮名遣いを理解する。 物語のあらすじや登場人物の心の動きを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要古語の意味を辞書で調べる。 用言の活用について確認する。 現代語訳の内容を理解する。
	中間 考 査		
	後半 1 7 時間 想定	漢文入門 成句・格言を読む 推敲（唐詩記事）	<ul style="list-style-type: none"> 訓読に慣れる。 再読文字、助字を理解する。 否定・禁止・不可能・疑問・反語・使役の句形を理解する。
期 末 考 査			
前半 2 2 時間 想定 2 学期	絵仏師良秀 （宇治拾遺物語）	<ul style="list-style-type: none"> 古文に慣れる。 品詞の種類と用言（動詞・形容詞・形容動詞）の活用を理解する。 物語の展開や登場人物の心の動きを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 登場人物の心情を中心に内容をまとめる。
	漁父之利（戦国策） 借虎威（戦国策） 蛇足（戦国策）	<ul style="list-style-type: none"> 訓読に慣れる。 書き下しに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確な訓読ができる。 書き下し文が自力でできる。 現代語訳を理解する。 故事成語の由来と現在の意味を理解する。
	中間 考 査		
後半 2 1 時間 想定 3 学期	芥川 東下り（伊勢物語）	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の修辞について・理解を深める 助動詞について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 敬語の種類や敬意の方向に留意して正確に口語訳する。
	春暁（孟浩然） 江雪（柳宗元） 送元二安西（王維） 春望（杜甫）	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩のきまり（形式・押韻・対句）を理解する。 詩の構成や展開をふまえ、詩の主題と作者の思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 重要単語の意味を調べる。 口語訳し、詩の展開に沿って内容をまとめる。
	期 末 考 査		
2 3 時間 想定 3 学期	門出 忘れ貝（土佐日記）	<ul style="list-style-type: none"> 時刻・地理を理解する。 助動詞について理解する。 物語の展開や登場人物の心の動きを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読をする。 古語の意味を調べる。 現代語訳を理解する。
	鶏口牛後 先従隗始（十八史略）	<ul style="list-style-type: none"> 訓読に慣れる。 句形（感嘆・部定・限定・受身）を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を訓読する。 書き下し文に改める。 現代語訳と本文の内容を理解する。
学 年 末 考 査			

計 101 時間（52 分授業）

教科（科目）	地理歴史（世界史B）	単位数	4単位	学 年	1 学年
教科書	『新詳世界史B』（帝国書院）	副教材	『ニューステージ 世界史詳覧』（浜島書店）		

1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、多様な文化や現代世界の諸問題を考察し、歴史的な思考を培う。

2 指導の重点

・世界の歴史の大きな流れを、各時代、各地域の重要な事項を中心に学ぶ。

・政治、経済、社会、文化、生活の各領域を扱い、歴史を総合的に捉える。

・現代世界の諸問題の成り立ちや、日本の歴史との関連などを学び、国際社会の中で生きる日本人としての自覚を養う。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと流れに、関心と問題意識を高めている。 民主的、平和的な国家・社会の一員としての自覚を深め、国際社会に主体的に生きる意欲を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界史の知識を踏まえ、現代世界の課題を歴史的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。 歴史的視点から世界の多様性を学び、異文化に対する理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集できる。 世界史の理解に有用な情報を主体的に選択して活用し、歴史的現象を追求する方法を身に付けている。 追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界史を理解するために必要な基本的な知識を身に付けている。 日本の歴史と関連付けながら世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握している。 現代世界の多様性と特質を歴史的視点から理解し、その知識を身に付けている。 世界の各時代及び各地域のあり方を歴史的視点から理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢	提出物 ノート 取り組みの姿勢	定期考査 提出物 ノート 発言 取り組みの姿勢

4 定期考査

- ・年間5回の定期考査を実施する。
- ・授業プリント等は定期考査後に提出を求める。
- ・課題を出す（不定期）。

5 担当者から一言

- ・世界史は、一見、過去のできごとに過ぎないと思われるかもしれませんが。しかしその内容は、他の教科や科目の学習内容と関連したり、世界で現在起こっている様々な出来事に結び付いたりしています。授業だけにとらわれることなく、新聞やニュースを見たり聞いたりして、できるだけ興味や関心を広げてください。
- ・最後に、活発な発言や質問を通して積極的に世界史の授業に参加してください。みなさんの「なぜ」「どうして」という疑問をふくらませ、歴史的視点から考える習慣が身に付くと、世界史の学習が楽しくなります。

6 年間学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい(何を学ぶか)	評価方法
(46) 時間 想定 1 学 期	1部 諸地域世界の形成と交流 序章 オリエンと地中海世界の形成 オリエンと世界 地中海世界の形成 ローマ帝国 2章 南アジア世界の形成 3章 東南アジア世界の形成 (中間考査) テスト返却・解答・解説 4章 東アジア世界のあけぼの 中華文明の形成 秦漢帝国と東アジア 5章 中央ユーラシア世界の形成と展開 中央ユーラシアの風土 古代遊牧帝国の興亡 6章 東アジア世界の變動と再編 7章 イスラーム世界の形成と拡大 (期末考査) テスト返却・解答・解説	世界史への興味関心を持つ 諸地域世界の形成 西アジア・地中海世界 南アジア世界の形成 東アジア世界の形成 内陸アジア世界の形成 イスラーム世界の形成 と拡大	・中間考査 ・期末考査 ・授業への 取り組み 方や意欲 ・課題の提 出状況 ・ノートの とり方
(58) 時間 想定 2 学 期	8章 ヨーロッパ世界の形成 キリスト教 西ヨーロッパの成長 封建社会の解 体と王権の伸張 9章 ユーラシア大帝国の出現 2部 海洋による世界の一体化 1章 アジア諸地域の栄華と成熟 明の国際秩序 世界帝国清 2章 大規模な分業体制の成立 大航海時代 ルネサンス 宗教改革 (中間考査) テスト返却・解答・解説 3章 西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制 重商主義と啓蒙専制主義、ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18世紀のヨーロッパ文化 4章 環大西洋革命 工業文明と国民国家の誕生 産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命 5章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 イギリスの覇権と自由主義 国民国家 6章 世界の一体化の進展とアジアの変容 イスラーム諸国の変容 アジアの植民地化 東アジア諸国の模索と変容 (期末考査) テスト返却・解答・解説	ヨーロッパ世界の形成 と變動 諸地域世界の交流と再編 アジア諸地域世界の繁 栄と成熟 諸地域世界の結合と変容 ヨーロッパ世界の拡大と 大西洋世界 ヨーロッパ・アメリカの 変革と国民形成 イギリスの覇権と近代世 界システム 世界市場の形成とアジア 諸国	・中間考査 ・期末考査 ・授業への 取り組み 方や意欲 ・課題の提 出状況 ・ノートの とり方
(31) 時間 想定 3 学 期	3部 地球社会形成の模索 1章 世界の一体化の完成とその影響 帝国主義と世界分割競争 アジアの体制改革 2章 世界大戦の時代 第一次世界大戦と社会主義革命 アジアのナショナ リズム ファシズム諸国の出現 第二次世界大戦 3章 東西冷戦から多極的国际社会へ アメリカの覇権と冷戦の展開 多極化 米ソ二極 時代の終焉 4章 相互依存を深める世界 ソ連・東欧社会主義圏解体後の世界 グローバル化 (期末考査) テスト返却・解答・解説	世界大戦前夜の近代世界シ ステム 社会主義の実験と二つの世 界大戦 アメリカの覇権とその盛衰 現代 グローバル化の進行	・学年末考 査・授業 への取り 組み方や 意欲 ・課題の提 出状況 ・ノートの とり方

計 135時間 (52分授業)

教科名	科目名	学科・学年	単位数
数 学	数学Ⅰ	普通科・第1学年	4単位
教科書 副教材	『新編 数学Ⅰ』(東京書籍) 『ニューサポート 数学Ⅰ』(東京書籍)		

1 学習目標

・数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、それらを積極的に活用しようとする態度を育てる。
・数学的事項を考察し、表現・処理する仕方や推論方法を身に付け、よりよく問題解決する方法を理解する。

2 指導の重点

数と式、二次関数及び図形と計量について理解し、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価規準	・多面的にもものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方の良さを学ぼうとしている。 ・身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとしている。	・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	・数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決したり判断したりすることができる技能を身につけている。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析整理し、数学的に考察することができる技能を身につけている。	・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的知識の意味を考えたり、見いだした数学的知識をいろいろな場面に活用できる。 ・文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解している。
評価方法	取り組み姿勢 提出物	取り組み姿勢 課題	ノート（机間巡視） 課題 定期・課題テスト	ノート（机間巡視） 課題 定期・課題テスト

4 定期考査・課題・提出物

・年間6回100点満点で実施。授業内容と課題内容から主に出題する。1学期、2学期は4回、3学期は2回の課題あり。
・長期休業中には、それまでの内容から復習・発展のための課題あり。休業あけに提出、課題テストあり。

5 担当者からの一言

・ノートをとるだけの授業ではなく、しっかりと話を聞くように心がけてください。

6 年間学習計画

学期	学習内容		学習のねらい	学習活動 (評価方法)
1 学 期	1章 数と式	1節 式の計算	・整式の加法・減法・乗法および因数分解を扱い、目的に応じて、式を1つの文字に置き換えたりすると複雑な式が簡単な式に帰着でき公式などを利用して能率よく計算できることなどを理解させ、式の見方を豊かにする。	発言（質問） 取り組み姿勢 （机間巡視） 課題・プリント
		2節 実数	・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や無理数の計算の基本的な考え方について理解を深める。	
		3節 1次不等式	・不等式の性質や解の意味を理解し、1次不等式を解くことができるようにする。また、それを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ・課題学習をする。	
	2章 集合と論証	1節 集合	・集合の概念や和集合、共通部分、部分集合、補集合などの集合に関する基本的な事柄を理解する。	
2節 命題と論証		・命題の真偽や命題と集合の関係を理解する。さらには否定、必要条件、十分条件、必要十分条件について理解する。 ・命題とその逆・裏・対偶の意味、それらの相互関係を理解し、その真偽を論理的に考える。 ・課題学習をする。		
2 学 期	3章 2次関数	1節 2次関数とそのグラフ	・関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ・2次関数について理解し、平行移動の考え方を利用して、そのグラフの概形をかけるようにする。また、与えられた放物線のグラフからその2次関数を求められるようにする。 ・2次関数の最大・最小を理解し、それを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	発言（質問） 取り組み姿勢 （机間巡視） 課題・プリント
		2節 2次方程式と2次不等式	・2次方程式の基本的な解法を理解する。 ・2次関数とx軸との共有点の座標や個数を求めることができる。 ・2次不等式の解では、グラフを用いた解法を丁寧に指導する。 ・課題学習をする。	
3 学 期	4章 図形と計量	1節 鋭角の三角比	・直角三角形における三角比の概念を導入する。	発言（質問） 取り組み姿勢 （机間巡視） 課題・プリント
		2節 三角比の拡張	・鈍角まで拡張する意義および図形の計量の基本的な性質について理解を深める。	
		3節 三角比への応用	・正弦定理や余弦定理、三角形の面積の公式を活用して、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積について考察できるようにする。 ・課題学習をする。	
	5章 データの分析	1節 データの整理と分析	・平均値、中央値について理解し、データ分析に活用できるようにする。 ・四分位数、四分位範囲について理解し、データ分析に活用できるようにする。	
2節 データの相関		・散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようになる。 ・相関係数について理解し、データの分析に活用できるようにする。 ・課題学習をする。		
想定 時数 (46)				
想定 時数 (58)				
想定 時数 (31)				

平成29年度シラバス

学番20 新潟県立村松高等学校

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年	1学年
教科書	『新編 物理基礎』(東京書籍)	副教材等	自作の教科書に沿った内容のプリント		

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 指導の重点

基本から丁寧に指導するよう心がける。自然に対して「なぜ」と常に疑問を持ち、ただ公式を覚えるのではなく、実験や実生活からの経験を生かして、理論的な積み上げができるような態度、思考方法をとることができるように、授業展開を心がける。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
評価規準	物理的な現象に関心や探究心を持ち、それから法則性を見つけ出そうとしたり、説明をつけようとしている。 授業や実験などに意欲的に取り組もうとしている。	物理的な事象・現象の中に問題を見出し、実験や観察事実などに基づいて、順序立てて考え、判断し、的確に表現している。	実験や観察の目的を理解し、示された実験方法に従ってそれらを適切に行うことができる。 また、実験や観察から得られた事項を自己の思考と関係させながら、レポート等にまとめることができる。	物理的な事象・現象に関する基本的な概念や法則について理解ができており、その方法や方程式から正しく計算することができる。
《 評価方法 》 定期考査を基に、提出物、授業への取り組み、出欠席などを総合的にふまえて評価する。				

4 定期考査・課題・提出物

定期考査、実験レポート・学習プリント・ノートなど

5 担当者からの一言

『物理は計算が多いから苦手だ』という人が多いようです。確かに計算や公式は少なくはないと思いますが、その公式や、出てくる物理量の意味を理解しながら学んでいけば、理解が深まり、少しずつ興味もわいてくると思います。また、実験については、必ずしも予想と結果が同じになるとは限りません。そこでも『なぜ違ったのか』を考えることで、物理的な思考法や自然の奥深さを知ってもらえると思います。

6 年間学習計画

	主 項 目	項 目	学習活動（学習内容）
1 学 期 (23)	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則	①速さ ②速度 ③加速度 ④等加速度直線運動 ①力とそのはたらき ②力のつり合い ③運動の法則	運動の表し方や加速度の概念について学習する。 グラフの意味を理解する。 落下運動について学習する。 力とは何かということを学習する。 自然界の様々な運動が力との関係で生じることを学習する。 運動方程式を学習する。
2 学 期 (29)	3章 日常に潜む力 4章 仕事とエネルギー 2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱 2章 波	①摩擦力 ②液体や気体から受ける力 ①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存 ①熱と温度 ②熱と物質の状態 ③熱の移動と保存 ④熱と仕事 ⑤熱効率と不可逆変化 ①波の表し方 ②重ね合わせの原理 ③音の性質 ④発音体の振動と共振・共鳴	摩擦力や浮力について学習しながら、さらに力についての理解を深める。 エネルギーとは何かということを学び、エネルギー保存の法則を学習する。 エネルギーは様々にかたちを変えるがその総量は変化しないことを学習し、物理的自然観を身につける。 仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 波の性質と伝わり方について学習するとともに、波はエネルギー伝達の手段の一つであることを理解する。
3 学 期 (16)	3章 電気 4章 エネルギー	①電気の性質 ②電流と電気抵抗 ③電気とエネルギー ④電流がつくる磁界 ⑤モーターと発電機 ⑥直流と交流 ⑦電磁波 ①エネルギーの変換と保存 ②エネルギーの利用 ③放射線の利用 ④原子力の利用	電気の正体が自由電子であることを学び、自由電子の振る舞いや特徴を理解する。 導体中の自由電子の運動モデルを通して、導体がつくる電気抵抗を理解する。 ファラデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場の変化と電流の向きからレンツの法則を理解する。 人類が利用可能な様々なエネルギーの特性や利用について、物理的な視点から理解する。 日常で具体的にどのように物理学が利用されているかを理解する。

計 68時間（52分授業）

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年	1年
教科書	『改訂 高等学校 新生物基礎』 (第一学習社)		副教材等	『ネオパルノート生物基礎』(第一学習社)	

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

細胞の働きおよびDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。

生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。生態系の成り立ちを理解させ、その保全の重要性について認識させる。

2 指導の重点

基本から徹底して学習する。自然に対して「なぜ」と常に疑問を持ち、ただ公式を覚えるのではなく、実験や実生活からの経験を生かして、理論的な積み上げができるような授業展開をする。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価規準	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	基礎的な知識をもとにして科学的に物事を考え、判断し、結果をまとめたり深めたりしている。	実験の目的に応じて適切な操作を行っている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	実験プリント ノート 学習状況の観察	実験プリント 各種小テスト 定期考査 ノート 学習状況の観察	実験プリント 学習状況の観察	定期考査 ノート 各種小テスト 副教材

4 定期考査・課題・提出物

ノート・実験レポート・学習プリント・ネオパルノート

5 担当者からの一言

自分自身を含めた生物のしくみを基本的な内容を中心に学んでいきます。細胞の働きやDNAの役割のような小さい視点から、生態系と呼ばれる生物集団と環境にかかわる大きい視点まで、様々な生命現象について興味を持ってほしいと思います。

6 年間学習計画

	主項目	項目	学習活動（学習内容）
1 学期 (23)	第1章 生物の特徴 第1節 生物にみられる多 様性と共通性 第2節 細胞とエネルギー	①生物の共通性の由来（1） ②生物の共通性の由来（2） ③細胞構造の共通性と多様性 ④真核細胞の構造 ①代謝と酵素 ②エネルギーとATP ②光合成 ③呼吸 ④ミトコンドリアと葉緑体の起源	細胞には原核細胞と真核細胞があることと、それらの細胞内構造の違いについて学習する。またそれらが共通の祖先から長い月日の間に多様化してきたことを理解する。 生物内で行われる化学反応である代謝とそのとき利用されるATPについて学習する。光合成と呼吸について理解する。
	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子とDNA 第2節 遺伝子の働き	①遺伝子・染色体・DNA ②DNAの構造 ③DNAの複製と分配 ①たんぱく質の構造と働き ②遺伝子の発現とタンパク質の合成 ③細胞と遺伝子の働き	遺伝子の本体はDNAであり、その構造と複製の仕組みを理解する。 細胞分裂の仕組みを理解する。 遺伝子の発現によってたんぱく質が合成されることをその仕組みとともに理解する。
2 学期 (29)	第3章 体内環境と恒常性 第1節 生物の体内環境 第2節 体内環境をいじす るしくみ 第3節 生体防御	①体液とその働き ②心臓の構造と体液の循環 ③赤血球と血小板の働き ④体液濃度の調節（1） ⑤体液濃度の調節（2） ①体内環境の調節のしくみ ②自律神経系の働き ③ホルモンによる体内環境の維持 ④血糖量の調節 ⑤体温の調節 ①生体防御 ②自然免疫 ③獲得免疫 ④免疫と医療	恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ヒトの心臓の構造と血液循環を理解する。 血液凝固のしくみを理解する。 腎臓の働きを理解する。 体内環境が自律神経系と内分泌系によって維持されていることを理解する。 各ホルモンの概要と働きを理解する。 血糖量の調節のしくみについて理解する。 体温調節のしくみについて理解する 免疫は、自然免疫と獲得免疫に分けられ、互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。
	第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 気候とバイオーム	①植物と環境 ②さまざまな植生 ③植生の遷移（1） ④植生の遷移（2） ①気候・降水量とバイオーム ②世界のバイオーム ③日本のバイオーム	光の強さと光合成速度の関係を理解する。 陸上の植生が、大きく3つに区分されることを理解する。また、植生は不変ではなく、長期的には移り変わっていることを学習する。 気温と降水量の違いによってさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
3 学期 (16)	第5章 植生の多様性と分布 第1節 生態系と物質循環 第2節 生態系のバランス と保全	①生態系 ②生態系の物質循環とエネルギーの 流れ ③物質循環 ①生態系のバランス ②人間生活と生態系（1） ③人間生活と生態系（2） ④生態系の保全	生態系の構成について理解する。 生態系において物質は循環していることを理解する。また、生態系におけるエネルギーの移動について理解する。 生態系を構成する生物は、全体としてバランスを維持していることを理解する。人間の活動による生態系への影響について理解し、生態系を保全する必要性を学習する。

計 68時間（52分授業）

平成29年度シラバス（体育）

学番20 新潟県立村松高等学校
担当 石塚 佐藤 皆川

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	学 年	1年
教科書	『現代保健体育』（大修館書店）	副教材等	なし		

1 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な運動能力と体力の向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさにふれ、生涯にわたりスポーツに親しむ習慣を育てる。

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時に授業を開始する。 ・安全の確保を徹底するため、準備運動をしっかりと行う。 ・他者を尊重する態度を育てる。

3 評価の観点と評価規準及び評価材料

観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしている。 ・公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。 ・健康や安全に留意して運動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。 ・課題解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。 ・自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の行い方を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術の仕組みと運動の学び方について理解できている。 	
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・個人カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・個人カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・計測 ・行動観察 ・個人カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・個人カード 	

4 定期考査・課題・提出物

持久走やマラソン大会については、欠席した分の補習を行う。

5 担当者からの一言

マナーを守り、スポーツの楽しさを味わってください。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (何を学ぶか)	学習活動【評価材料】
3 4 時間 想定	体づくり運動 体ほぐし運動 体力を高める運動	①体への気づき ②体の調整 ③仲間との交流	評価の観点及び評価材料をもとに、出欠席なども含め総合的に評価する。
1 学 期	陸上競技 100M 50Mハードル 円盤投げ、 1500M(男) 1000M(女)	①運動の基礎等、総合的判断することができる ②運動適性を科学的に捉えることができる ①正しいフォームを身に付ける ②自己の記録向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができる	
4 3 時間 想定	陸上競技 持久走 マラソン大会	①心肺機能を高める ②自己の記録向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができる	
2 学 期	球技 サッカー(男子) バレーボール(女子)	①基本的な動作を身に付ける ②それぞれの技術レベルに応じて楽しむことができる	評価の観点及び評価材料をもとに、出欠席なども含め総合的に評価する。
	体育理論	①スポーツの歴史、文化的特徴や現代のスポーツについて理解させる	
2 3 時間 想定	球技 バスケットボール バドミントン	①基本的な動作を身に付ける ②それぞれの技術レベルに応じて楽しむことができる	評価の観点及び評価材料をもとに、出欠席なども含め総合的に評価する。
3 学 期	スキー・スノーボード	①自然の美しさや雄大さに触れながら、自己の心身の状態を調整する能力を高める	

計 101 時間 (52 分)

科目	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年	1 年
教科書	『現代高等保健体育』（大修館書店）	副教材等	『現代保健ノート』（大修館書店） 『図説現代保健』（大修館書店）		

1 学習目標

生活習慣病についての理解と予防について学ぶ。

精神の構造を理解し自己実現力を高める。

交通および救急法を通し安全への理解を深める。

2 指導の重点

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択して実践すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

3 評価の観点と評価規準及び評価材料

観点	意欲・関心・態度	思考・判断	知識・理解		
評価規準	理解しようと努力している。	健康の保持増進に関する課題の解決に向けて、総合的に考え、判断している。	健康を保持増進するための課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。		
評価材料	授業態度 学習ノート・課題の提出	授業態度 発言 グループ学習	定期考査		

4 定期考査・課題・提出物

各学期末考査・欠点補習課題・学習ノートの提出

5 担当者からの一言

健康について学びましょう。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動【評価材料】
1 1 時間 想定	◇現代社会と健康 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 様々な保健活動や対策 生活習慣病と日常の生 活行動 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 医薬品と健康	我が国の健康水準や健康問題を把握し、生活習慣病の理解と予防について学ぶ	期末考査 ノート提出
1 学 期			
1 5 時間 想定	感染症とその予防 エイズとその予防 健康にかかわる意志決 定・行動選択 意志決定・行動選択に 必要なもの 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスへの対処 自己実現	感染症についての理解と予防法を学ぶ 精神の構造を理解し自己実現力を高める。	期末考査 ノート提出
2 学 期			
8 時間 想定	交通事故の現状と要因 交通社会における運転 者の資質と責任 安全な交通社会づくり 応急手当とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当	交通および救急法を通し安全への理解を深める。	期末考査 ノート提出 心肺蘇生法の実習

計 34時間（52分授業）

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1年
教科書	『Tutti 音楽Ⅰ改訂版』 （教育出版）	副教材等		『楽しく学べる 楽典教室』（kmp）	

1 学習目標

- ①音楽活動を通じて、音楽の持つ多彩な生命力に触れ、音楽文化への理解と愛好心を育てる。
- ②音楽の幅広い活動を通して、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育てるとともに、感情を高め、創造的な表現の能力を伸ばし、自己のみならず他者の即ち世界文化を理解・共有できる人間の育成を目指したい。

2 指導の重点

- ・音楽についての総合的な理解を深めるため、歌唱、器楽、鑑賞、創作の各領域を一体化した内容を授業に盛り込む。また、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習を進める。
- ・計画的な共同作業を設定して、仲間と協力して努力し、達成感と演奏する喜びを体験させる。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	音楽活動の喜びを味わい、音楽や、音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈し価値を考え、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	遅刻・忘れ物がないか 指導や指示への反応 努力する姿勢 提出物 実技テスト	発声での反応、表現力 器楽奏法、表現の工夫 実技テスト	取り組み姿勢 実技テスト	感想文

4 定期考査・課題・提出物

- ・定期考査は各学期中に行う。
 - ① 実技：歌唱、器楽合奏を課題解決への自主計画の内容とともに五段階の基準を設けて評価する。
 - ② 楽典：学習範囲の提出と確認試験を行い評価する。
- また、これらに普段の授業態度やプリント内容を加味して成績とする。授業態度は努力度として重視する。

5 担当者から一言

・音楽とは本来、自発的な行為であり、自ら奏でることによって音楽の楽しさ、喜びが味わえると感じています。さまざまな音楽を学び、自ら体験することによって、多文化への理解や音楽文化の価値を見出せるようになってほしいと望んでいます。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
2 3 時間 想定 1 学 期	音楽と生活	自分の音楽経験を振り返る。 本校校歌の学習。歴史や歌詞の意味の理解。発声のための姿勢、呼吸法。	・音楽アンケート。 ・発声のための準備運動。 ・校歌の歌詞、歌唱練習。
	日本の歌と音楽： 歌唱、鑑賞	日本の歌を通し、日本の音楽の特徴を考え、理解する。	・「少年時代」、「上を向いて歩こう」、「この道」等の鑑賞、歌唱。
	リズムアンサンブル	基礎的なリズムや強弱を学び、読譜力を身につけさせる。	・クラッピングアンサンブルを演奏する。
	ギター曲の演奏	基礎的なギターの奏法を学ぶ。 ギターを通し、音楽に触れる。	
	鑑賞	映像と音楽の関係に意識を向けて、音楽関係の映画を鑑賞する。	・音楽映画を鑑賞する（未定） ・課題プリント
	楽典	副教材テキストにより学習内容を確実に身に付けさせる。	・五線の理解。音符の長さ、休符の長さ、音名の区別、拍子、楽語の理解。 ・上記を正しく書く。
	学習内容の確認	①歌と楽器の実技テスト ②楽典テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
2 9 時間 想定 2 学 期	西洋の歌と音楽： 歌唱、鑑賞	西洋の歌を通し、西洋の音楽の特徴を考え理解するとともに、日本の音楽について考え直す。	・「Caro mio ben」の鑑賞、歌唱。 ・イタリア語の発音、語感から、曲の感じをつかみ、表現する。
	楽典	リズム、音階、楽語の理解（継続）。各種記号。	・リズム、音階、楽語の理解（継続）。各種記号。
	和楽器の演奏、鑑賞	基礎的な奏法を学ぶ。 和楽器を通し、日本の伝統音楽に触れる。	・和楽器を演奏、鑑賞することで、日本音楽の特徴を学び、自国の文化財産に興味関心を持つ。
	鑑賞	映像と音楽の関係に意識を向けて、音楽関係の映画を鑑賞する。	・音楽映画を鑑賞する（未定） ・課題プリント
	学習内容の確認	①歌と楽器の実技テスト ②楽典テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
1 6 時間 想定 3 学 期	日本の歌と音楽	音程や、リズムなどの特徴を捉え、歌唱する。	・二声程度の合唱曲を歌唱する。
	ミュージックベルグループ演奏	グループを結成して合奏を工夫して演奏する。 到達目標、練習計画を立てて実行する。教師は経過を見ながら修正、助言、実技レッスンなどを随時行う。	・練習計画、目標を立てて練習に取り組む。目標通り協力して練習できたか反省と自己評価を行う。
	鑑賞	映像と音楽の関係に意識を向けて、音楽関係の映画を鑑賞する。	・音楽映画を鑑賞する（未定） ・課題プリント
	学習内容の確認	①重唱の実技テスト ③ グループ演奏の実技テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。

計 68 時間 (52 分授業)

平成29年度シラバス（芸術 — 美術）

学番20 新潟県立村松高等学校

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1年（3クラス）
教科書	『高校生の美術1』 （日本文教出版）	副教材	課題制作のための説明プリント他		

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

- 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育てる。
- 美術や美術文化を広く理解させ、その良さや、美しさを創造的に理解させる。
- 創造的な美術の表現をするための技能を身につけさせる。

3. 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために、必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> • 作品 • 課題プリント • 取り組み姿勢 • 持続力 • 意欲 • 発言 	<ul style="list-style-type: none"> • 作品 • 発想力 • 構想力 • 発言 	<ul style="list-style-type: none"> • 作品 • 集中力 • 向上心 • 適切な用具の使用や後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題プリント • 発言

4. 定期考査・課題・提出物

- 定期考査は行わない。作品制作や鑑賞を通じて、完成作品だけでなく草案やレポート、取り組み姿勢などを総合して評価する。
- 課題や作品には、必ず記名し、提出日は、厳守すること。

5. 担当者からの一言

• 他の人とは違う自分の良さを発見し、個性ある作品になるよう向上心をもって取り組むことを期待します。最後まであきらめず、丁寧な作品制作を心がけて下さい。

6. 年間学習計画

学期	学習内容／題材		学習のねらい	学習活動・【評価方法】
(23) 1 学 期	4月	オリエンテーション／ 「美術1」とは	「美術1」の学習の意義を知り、年間の予定や評価について理解する。	シラバス等冊付。 今年目標
		デザイン／ レタリング	読みやすく、美しく統一感のある文字を描く力をつける。 アクリル絵の具の特性を知り、扱い方を身につける。	ポートフォリオにアルファベットで氏名をレタリング、アクリル絵の具で着色。 【作品】
	5月	デザイン／ 基礎デザイン	直線や円弧を使い、幾何学模様をデザインをする	①三角定規やコンパスを使用し、幾何学模様をデザインする。作成。 【作品】
	6月	デザイン／ ペーパークラフト	透かし彫り・切り絵の技法を理解する。 カッターナイフの正しい使用法を理解する。	②デザインされた幾何学模様を透かし彫り、正多面体を作る。 【作品】
(29) 2 学 期	7月			
	8月	鑑賞／	美術と人間、作品についての理解を深める。	VTR等の鑑賞。 感想カードへの記入。 【感想カード】
	9月	美術史、美術の流れ		
	10月	色彩／ カラーワーク ①	①色の要素や12色相環、配色について理解する。	①12色相環をもとに配色表を作成。 【作品】
	11月	カラーワーク ②	②絵の具の混色により、多様な表現ができることを学ぶ。	②自分だけの100色制作 【作品】
12月	カラーワーク ③	③色彩構成の制作を通して、多様な表現ができることを学ぶ。また、友人の作品を鑑賞し、相互理解をする。	③パネルの水張り 色彩による感情の表現 【作品】【感想カード】	
(16) 3 学 期	12月	鑑賞／ 作家の生き方と作品	作者の心情や意図、表現の工夫などについて理解を深める。	VTR等の鑑賞。 【感想カード】
	1月	絵画／	観察力を養い、デッサンの基礎を学び、描写の技能を高める。	石膏像などの鉛筆デッサン。 【作品】
	2月	デッサン		
3月	絵画／ ドローイング	大胆な色彩や筆遣いで描く喜びを体験する。また、偶然にできあがる美を発見し、抽象絵画の面白さを知る。	アクリル絵の具使用、刷毛、ローラー等によるドローイング。 【作品】	

計 68 時間 (52 分授業)

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1年（3クラス）
教科書	『書Ⅰ』（教育図書）	副教材等	なし		

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- 1 用具、道具の適切な扱い方を学ぶ。
- 2 文字を素材とした表現活動を中心とし、さまざまな題材のねらいをもちながら自己表現を展開していく。
- 3 文字の成立について学ぶ。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	<p>さまざまな書の美に関心をもっている。</p> <p>意欲的、主体的に表現し、その喜びを味わおうとしている。</p> <p>学習にのぞむ態勢は整っている。</p>	<p>表現効果を高めるための工夫をしている。</p> <p>習得した技法を、表現活動に生かしている。</p>	<p>基本的な用筆法を習得し、用具・用材の特性を生かした表現の技法を身につけている。</p> <p>創意工夫のある表現ができる。</p>	<p>書の良さや美しさを深く味わっている。</p> <p>古典作品の時代的、書道史的価値を理解し文章に出来る。</p>
評価方法	<p>作品制作に取り組む姿勢。</p> <p>課題作品の提出。</p> <p>毎時の出席状況、用具の準備状況(忘れ物、遅刻は減点、皆勤、忘れ物なしは増点)</p>	<p>課題作品の提出</p> <p>作品製作過程における補助プリントの内容。</p>	<p>課題作品の提出</p> <p>各時間ごと、段階ごとの技術習得状況。</p>	<p>作品鑑賞に取り組む姿勢。</p> <p>鑑賞カードの記入状況</p>

4 定期考査・課題・提出物

- ・ 定期考査はなし。各单元ごとの作品提出(各学期 5点程度)

5 担当者からの一言

多くの個性豊かな古典に触れながら、少しでも多くの技法を習得し、自分らしく伸びやかな書を書こう。書の学習を通して、他の芸術にも触れ、自己の感受性を高めよう。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(23) 時間 想定 1 学 期	授業の説明と書写	授業の進め方、評価の仕方などを理解する。 書写の復習をしながら、筆使いを学ぶ。	学習活動への参加状況や態度 「永」字の提出。
	漢字の書の学習	漢字の書の変遷について学ぶ。 北魏時代の楷書成立の背景を知り、造像記の臨書を通して多様な表現法を学ぶ。 楷書完成期である唐時代の古典を学び、基本の用筆を身につける。	学習活動への参加状況や態度 提出作品
	競書大会作品制作	新潟県の競書大会課題を練習、出品。 課題語句を古典をもとに創作し、半紙作品を仕上げる。 新潟県書道教育研究会 新潟大学競書大会 (二つの内一つを選択)	学習活動への参加状況や態度 提出作品 大会成績
	硬筆の学習	硬筆書写検定3級問題をもとに行書やはがきの宛名書き、速書きなどの実用的な硬筆を学ぶ。	学習活動への参加状況や態度 プリント提出 理論・実技問題の確認テスト
(29) 時間 想定 2 学 期	筆使いの練習	二学期の行書の導入として、空海の風信帖より、墨継ぎなしで4文字を書くことで、筆使いの技法を習得する。	学習への参加状況や態度 筆使いの状態 提出作品
	行書の学習	行書の基本を学び、流動的な運筆になれ、表現の幅を広げるとともに日常で使えるようになる。 王羲之「蘭亭叙」についての理解を深め、全臨(全文を書き写すこと)に挑戦する。	学習活動への参加状況や態度 提出作品 プリント記入状況
	隷書	古典の臨書を通して隷書の特徴を理解し、普段使用する漢字を隷書体で書き表す。	学習活動への参加状況や態度 提出作品
(16) 時間 想定 3 学 期	鑑賞	他者の作品に題名をつけることで、自分なりの解釈を持つ。	プリント提出
	仮名作品 篆刻	仮名の成立と変遷を学び、日本の表記法について理解する。 自詠の句を変体仮名を用いて創作し、仮名特有の表現方法を身につける。 篆書の発生と現在までの文字の変遷を学び、検字、布字、運刀の各段階を丁寧に経て姓名印を作る。	学習活動への参加状況や態度 提出作品

教科(科目)	外国語(コミュニケーション英語Ⅰ)	単位数	5 単位	学 年	1 年
教科書	Viva! English Comunication I (第一学習社)	副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書準拠『ワークブック』 ・『プレップイングリッシュ』(旺文社) ・英単語集『Vital 1700』(文英堂) ・Listening Pilot Level 1(東京書籍) 		

1 学習目標

- ①中学校での学習事項を再確認しながら、外国語学習を通して言語や文化に対する理解を深める。
- ②基礎的な単語や文法事項を用いて自分の考えを表現するなど積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ③副教材『プレップイングリッシュ』を使い、基礎英文法の定着を図る。
- ④日常生活に関する英語を聞いて、その概要を聞き取る力を養う。

2 指導の重点

- ①中学生で習ったことを復習し、基礎的な力を養う。
- ②文法事項を用いて、自分や周囲の事柄について英語で表現させる。
- ③英語の指示を理解し、最後まで諦めずに活動に参加する態度を養う。
- ④読む・書く・聞く・話すの4技能を使う活動をバランス良く取り入れ、積極的に取り組ませる。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	言語活動に関心を持ち、できる限り英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	日常的な話題について英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に表現している。	日常的な話題の英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解している。	英語の学習を通じて、その背景にある文化や歴史などを理解している。また、言語の運用についての知識を身につけている。
評価方法	上記の規準をもとに、活動への取り組みや授業中の態度、定期考査、課題への取り組みや提出状況、単語テストなどから総合的に評価する。			

4 定期考査・課題・提出物

定期考査5回、課題テスト、小テスト、授業で使用するワークシート、ワークブック等

5 担当者からの一言

中学で習ったことの復習からスタートします。英語に苦手意識を持っている人もいるかもしれませんが、すべてはあなた次第ですので最後まで諦めずについてきてください。もしわからないところがでてきたら、授業中や休み時間に積極的に聞いてください。学年共通の単語テストがあります。音読テストも実施します。定期テストで良い点を取る自信がなくても、普段の授業や宿題にしっかり取り組みれば、自然と力はつきますので、努力しましょう。全ての課題・活動が評価の対象になります。

6 年間学習計画

学期	単元名	言語材料	学習のねらい	評価材料
57h 1	辞書学習	辞書の引き方	辞書を引くことに慣れる	課題への取り組み 定期考査 小テスト
	Lesson 1 Reach Out to World!	動詞の現在形と過去形 疑問詞を使った疑問文	オリンピック招致演説の紹介文を読み、 状況に応じて自分の情報を伝えることができる	
	Lesson 2 What Is Your Favorite?	進行形	ご当地キャラについての英文を読み、 自分の好きなものや今やっていること について簡単な英語で互いに教え合う ことができる	
	Lesson 3 Life in Space	助動詞	宇宙船での生活についての英文を読み、 自分が今後取り組んでみたいことにつ いて話すことができる	
	Lesson 4 Kikigaki Koshien	to-不定詞	森の名人の知恵を聞き、書き留める活 動を紹介する英文を読み、周りの人の 情報を聞き、簡単な英語でまとめるこ とができる	課題への取り組み 定期考査 小テスト
73h 2	Lesson 5 The cradle of Life	動名詞	森林の破壊について知り、環境の問題 について自分の意見を述べることがで きる	課題への取り組み 定期考査 小テスト
	Lesson 6 Shima Uta	受動態	戦争について学び、平和に関する調べ 学習を行い発表する	
	Lesson 7 A Cool iNvention	比較表現	日本の技術「クールジャパン」につい て知り、その例を調べ、英語で説明で きる	
	Lesson 8 Tuna Culture	現在完了	水産資源保護についてこれまでの研究 を学び、自分がこれまで取り組んでき たことについて述べるができる	
39h 3	Lesson 9 Can Robots Change Our Future?	関係代名詞	ロボット技術の進化について知り、自 分の今後の希望や夢について述べるこ とができる	課題への取り組み 定期考査 小テスト
	Lesson 10 The Navoi Theater - an Amazing Building	分詞	ウズベキスタンの歴史について知り、 日本や外国の歴史について調べ、発表 できる	
	Reading Education First!	既習事項		

計 169 時間 (52 分)

教科（科目）	家庭（家庭総合）	単位数	2単位	学 年	1年（全クラス）
教科書	『新家庭総合 パートナーシップでつくる未来』（実教出版）	副教材等	『生活ハンドブック』（第一学習社）		

1 学習目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
--

2 指導の重点

① 自立して生活していけるよう、必要な知識と技術の習得を目指す。 ② 社会全体で支え合っていることを知るとともに、人とつながりながら共に生きる力を学ぶ。 ③ 人間の将来の生活について考え、資源を大切に、自然や環境と調和して暮らしていく方法を学ぶ。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	家庭や地域の生活について関心を持てた。実験・実習に積極的、意欲的に取り組んでいる。	家庭や地域の生活に目を向け、日常のあらゆる場面でどのように行動したらよいかを考えている。	生活に必要な技能を身につけ、実生活に生かそうとしている。	家庭生活の意義や役割を理解し、生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。
評価方法	ノート 提出物（プリント・被服製作作品 ワークシート など） 取り組み姿勢	提出物（感想文） 取り組み姿勢	ノート 提出物（プリント・被服製作作品 ワークシート など）	定期考査 ノート 提出物（プリント・被服製作作品 ワークシート など）

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は、中間、期末とも100点満点とし、授業内容の理解度を確認します。
また、提出物は、授業中に取り組むプリント、ワークノート、2学期に行う被服製作実習で作る基礎縫いとエプロンの完成作品、その他実習課題です。

5 担当者からの一言

<p>家庭総合は、1年次2単位、2年次2単位とあわせて4単位の科目です。1年次では主に自分らしい生き方と家族、衣生活、消費経済や環境、住居についての学習をします。</p> <p>被服製作で作る小物やエプロンは、必ず完成させ提出してもらいます。授業時間内で終わらなかった人のために補習時間を設けますが、なるべく授業時間内に完成できるように頑張りましょう。</p>
--

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(23) 時間 想定 1 学 期	自分らしい生き方と家族	これまでの自分を振り返り、これからの自分について考え、自分らしく生きること、共に生きる社会について考える。 家族に関する法律、男女共同参画社会などを学ぶ	自分自身のこれからの人生や男女共同参画社会、家族などについて考える。 【発言】【ノート】【プリント】
	中間考査		
	衣生活 被服製作実習 (基礎縫い)	衣服のはたらき、衣服材料の種類と特徴、衣服の構成などを学ぶ。 基本的な手縫いの方法を身につける。 ミシンのかけ方、縫い方の基礎を学ぶ。	衣服材料の特徴を知り、着用目的に合った衣服材料の選択ができるようにする。 なみ縫い、返し縫い、まつり縫い、ボタン付け、スナップ付け等の基礎縫い。 【発言】【ノート】【プリント】 【手縫い基礎縫い】 ミシン、アイロンの使い方を理解し、衣服製作に必要な技法を身に付ける。 直線、曲線、角の縫い方などの基礎縫いを行う。 【プリント】【ミシン基礎縫い】
	期末考査		
(29) 時間 想定 2 学 期	被服製作実習 (エプロン)	エプロンの製作。	製作に必要な知識と技術を身につける。ポケットの位置や装飾など、個々の発想を生かした作品を仕上げる。
	衣生活の管理と環境	衣服の管理方法、環境との関係、衣生活の文化などを学ぶ。	実習や実験などを通して衣服を適切に取り扱う能力を養う。 【エプロン】【ノート】【プリント】
	中間考査		
	住生活	住居の機能と管理、ライフステージに応じた住空間の理解 平面計画やインテリア計画など	安全で健康的な住環境について考えることができるようにする。 平面計画シートを作成し快適で機能的な住空間について理解する。 【ノート】【プリント】【平面計画シート】
(16) 時間 想定 3 学 期	消費者として自立する	消費行動を行うための知識を学ぶ。 パーソナル・ファイナンスについて学ぶ。 消費者の権利と責任について学ぶ。	自分のお金の使い方を意識する。 将来の生活における経済の計画について考える。 悪質商法やクレジットカードの使い方を理解する。 【発言】【ノート】【プリント】
	生活と環境	私たちの生活と環境問題、持続可能な社会、私たちが環境のためにできることなどを学ぶ	現在起こっている環境問題について理解を深める。 持続可能な社会の実現に向けて自分たちにできることを考える。 【発言】【ノート】【プリント】
	学年末考査		

計 68 時間 (52 分授業)